

会津漆器メーカーの生産性の高い工場づくり支援

住所	福島県会津若松市門田町大字一ノ堰字土手外1998番3(漆器団地内)	資本金	1,000万円
代表者	曾根 佳弘	従業員数	58名
創業年	昭和10年(法人化:昭和40年4月)	売上高	約630百万円(平成25年度7月期)
業種	漆器の製造・卸販売		
TEL	0242-27-3456	URL	http://www.owanya.com/

事業概要(被災前)

- ・会津漆器の卸販売として、曾祖父が昭和10年に三義漆器店を創業。
- ・会津若松市の漆器団地内に自社工場を持ち、お椀を主力に自動化ラインで1日5,000個の生産体制を構築。
- ・会津漆器の伝統を尊重しながら常に時代のニーズをとらえたモノづくりに力を入れており、自社開発のオリジナル製品(電子レンジや食器洗浄機に対応した樹脂食器製品など)を投入。
- ・会津漆器の産地では外部への委託製造が多いなか、品質を重視し自社での一貫生産にこだわる。
- ・毎年開催される国際インテリア見本市「メゾン・エ・オブ ジェ」(右写真)には7年連続で出展。



MAISON & OBJET (Paris)
2011.9.9-13展示会出展

被災概要

- ・東日本大震災の地震による被害
工場建屋の損傷はあったが、工場の生産設備に大きなダメージはなし。
- ・東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う風評被害
海外向け商品は、風評被害による輸出品のキャンセルが頻発。
国内向けは、その後に全国へ広がった福島復興応援により需要が高まり、逆に生産が追いつかない事態となる。



福島第一原子力発電所の
原子力建屋の外観

復興に向けた状況や課題

- ・国内向けでは復興支援で増えた受注に追いつかず、生産能力と品質を向上。
- ・新工場を増設するにあたり、最適な生産ラインとなるように事前に綿密な準備。
- ・海外向けでは、風評被害を乗り越えるため、積極的に海外の展示会等を通じて自社製品をアピール。

支援テーマと内容

1. 既存生産ラインの改善活動の支援
徹底的にムダを排除するための指導と品質を向上させるための指導を実施する。
2. 新生産ライン(新工場)の生産性向上のための事前支援
2014年3月に竣工予定(当時)の新工場の生産ラインを円滑に稼働させ、生産性と品質を向上させるための指導を実施する。
3. 販路開拓の支援
ニューヨーク(NY NOW夏展)出展のためのサポートを実施する。
※中小機構・海外展開支援による事業

電子レンジでも
使用できる自社
オリジナル商品





「ニューヨーク近代美術館」館内ショップへ当社製品を納品(弁当容器)

New York NOW夏 出展の様子



中小機構の海外展開支援のサポートとして、ターゲット・ディストリビュータや出展競合品の調査、会期中の通訳支援を実施

工場現場



要所にシールを貼り、ムダな作業を無くす努力が成果になって表れている

支援の成果

- 既存生産ラインの改善活動支援
 - 5S活動やムダを徹底して排除する取組み、品質向上策の指導を実施したことにより、半年間で生まれた成果は、
 - 生産率が1.8倍
 - 製造品の不良率は改善前の5~6%から1%未満に激減
 - 生産量:1日5千個から1万個に倍増
 - 社員に意識改革が浸透 など
- 新設生産ライン(新工場)の円滑稼働のための事前指導が、新工場の円滑な稼働に大きく貢献
- NY NOW夏展への出展サポート(※機構の海外展開施策)
 - 弁当容器「弁当当」が展示会で注目され、ニューヨーク近代美術館のミュージアムショップで展示販売された。
 - 現在アメリカ国内の20社ほどに納品、ニューヨーク近代美術館の売店で弁当箱が取り扱われる
 - ※同美術館は世界中から多くの来館者がある近現代美術と工業デザインの殿堂。「MADE IN AIZU」の魅力と技術が世界に発信される。

今後の事業展開



汚れが簡単に落ちる表面加工した食器を手にする曾根佳弘社長。国内外の販路拡大を目指す。



2014年3月に落成した新工場と社員

- 国内外からの発注に応えられる生産体制の確立
 - 成型から塗装まで一体的に行う新工場を本格稼働させることで、生産能力は従来の2倍以上。
- 販路拡大
 - 世界の市場と消費者が満足する製品づくり積極的な商品アピール。

事業者からのコメント

平成22年度、中小機構が運営する中小企業大学校仙台校の工場管理者養成コースを学んだ私のところへ、震災翌年の平成24年春に当時大学校の講師を務めておられた市川昭男アドバイザーから状況を聞きたいとの一本の電話が入ったことが、震災復興支援アドバイザー派遣制度を受けきるきっかけでした。

悩んでいた生産性向上が目に見える形で成果が出てきたのは市川アドバイザーの的確なご指導の賜物です。合わせて、新工場の立ち上げ支援も受け、事業を軌道に乗せることができました。今後も風評被害を乗り越えながら、売上高7億円を目指し、事業を発展させたいと考えています。

株式会社三義漆器店
取締役生産部長
曾根 典弘 氏



震災復興支援アドバイザーからのコメント

電機メーカーでの工場管理の経験を生かし、相談者には「作業のムダ」の排除を徹底指導することを心がけています。製造業の場合、付加価値の低い作業(ムダな作業)は50%もあるのが現実で、このムダな作業時間を短縮することは自分達で実現が可能です。ムダを無くす取り組みにより20%の生産性向上を果たしたケースは多々あります。

今回の場合は、震災の風評被害で低下した生産性をいかに向上させ、需要に応えるかがポイントでした。工場内の整理・整頓から作業のムダを徹底して排除するよう指導しましたが、曾根取締役生産部長と社員のやる気によって達成できたと思っています。

新工場も稼働を開始しています。今回の改善経験を生かし、生産効率の行き届いた工場づくりが実現されるよう期待しています。



震災復興支援アドバイザー
経営士 市川 昭男